

昨年は4回開かれた冬の市。旬の食材を使った催しなどが人気を集めました



冬の市

北三陸くじ

全5回開催

11月23日(火) 10時~14時
 12月23日(木) 10時~14時
 1月23日(日) 10時~14時
 2月13日(日) 10時~14時
 3月13日(日) 10時~14時

※開催会場はすべて市日通り周辺



事務局(商工観光課) 中村有賀 主事

内容充実!ぜひお越しを

開催6年目で、冬の市も定着してきました。今年は新久慈市誕生5周年を記念して、回数は5回に増。さらに内容を充実し、久慈の冬を盛り上げます! 街も市日もまるごと楽しめる冬の市にぜひお越しください!

誘客

歩行者 1.5倍
市日と連携し
街も活路探る

目を見張る集客力

客数が減ったといいながら、今も市日の集客力には目を見張るものがあります。久慈商工会議所がまとめる市街地歩行者通行量調査によると平成21年平日の通行量は5191人。これに対し市日の開催日は7963人で1.5倍多くなっています。(左上表) 久慈商工会議所振興課の中野康宏係長は、市街地活性化に向け市日効果に期待します。「特に春や秋など、品が豊富な時期の市日は商店街の客数にも大きな影響があります。各店も市日に合わせてセール日などを設定。市日の活性化と商店街への波及を期待し、今後、市日の情報発信もしていきたいと考えています」。市街地のにぎわいを支える市日から、活性化への活路を探っています。



市日に期待する中野康宏係長

市日軸にして展開

観光資源でもある市日を重視し、市は各団体と協力して「北三陸くじ冬の市」を開催。市日と連携して冬の集客を図っています。



集客に意気込む野場正輝会長

6年目の今回は新市誕生5周年を記念して企画内容も充実。より多くの方に市日とイベントを楽しんでもらえるように準備を進めています。実行委員会会長を務める商店会連合会の野場正輝会長は集客に向け意気込みます。「冬の市でお客さんと呼び込み、商店街も市日も盛り上げたいです。この機会に街なかを歩いてほしいですね」。

市日の一つの軸にして展開される市街地への誘客策。長年、人をひきつけてきた市日の重要性を見直し、市日と市街地を一緒に盛り上げようと取り組んでいます。

市日に見た光

大型スーパーやコンビニエンスストアが出店し、わたしたちの買い物は、ここ20年ほどで、ずいぶん便利になりました。インターネットが普及した今、パソコンの画面上で品定めをし、ボタン一つで品物を買うことだってできます。買い物や暮らしが便利になると反比例するように、お客さんが減り続けている市日ですが、歩いてみると温かい人と人との交流が、どの店先でも目に入ります。「元氣だ」「最近どうだよあ」。商売の話よりも互いに気遣う話の方が多くようにさえ感じます。市日の出店者とお客さんのかかわり方は、数十年前と比べても、ほとんど変わっていないのではないのでしょうか。便利になる生活の中で変わったのは、むしろお客であるわたしたちの方かもしれません。

環境や経済、安全など、さまざまな問題が指摘される現代社会。人間関係の希薄化も問題の一つです。しかし市日に希薄な人間関係は見られませんでした。見えたのは人のつながりという光です。パソコンや携帯電話などで、顔を合わせなくても多くの用事が済ませられる現代社会の中、市日にある人のつながりはとても輝いて見えました。市日のにぎわいは、市街地活性化の基準だけでなく、人間関係の基準の一つでもあるのかもしれない。今月からは北三陸くじ冬の市が始まります。初めてでも市日に出掛けやすくなる良い機会です。皆さんも「光」を確かめに市日に出掛けてみてはいかがでしょう。きっと市日は皆さんのことを笑顔で迎えてくれることでしょう。

笑顔に会いにいらつしやい



【参考文献】久慈市史、九戸郷土研究会刊・九戸文化第5号「久慈の市日について」(中澤義雄氏著)